

さくがわ・たかゆき

2021年9月、浦添市前田にさくがわクリニックを開院。モヤモヤ血管が原因で起こる長引く痛みで悩む患者さんに運動器カテーテル治療・動注治療を提供。放射線診断専門医。IVR(画像下治療)専門医・指導医。運動器カテーテル治療研究会・監事。



長引く痛みはなぜ起こる?

～新治療 さくがわクリニックのカテーテル治療～

文・佐久川 貴行(さくがわクリニック院長)

(第3週に掲載)

PR

vol.
06

長引く痛みでお悩みの患者さんに運動器カテーテル治療・動注治療を提供する、浦添市前田のさくがわクリニック院長が、さまざまな疾患とその治療法について解説します。

重症の方に当院で超音波検査を行うと、痛みの部位や骨のとげ（骨棘）の周囲にモヤモヤ血管が

治療後経過には個人差も

中等症～重症の方はレントゲン検査で軟骨のすり減りが明らかで、骨のとげ（骨棘）が目立つこともあります。湿布・鎮痛薬・ヒアルロン酸注射の効果が十分とは言い難く、一般的に人工ひざ関節など手術を勧められることが多いと思います。

当院が治療対象とする「モヤモヤ血管」は40歳以上の方に生じやすいですが、中等症～重症の変形性ひざ関節症は60歳以上に見られることが多いです。中等症になると正座や階段の上り下りで痛みが出るようになります。重症になるとひざをまっすぐ伸ばせなくなり、安静時や夜間にも痛みを伴うことがあります。

モヤモヤ血管は40歳以上の方に生じやすいですが、中等症～重症の変形性ひざ関節症は60歳以上に見られることが多いです。中等症になると正座や階段の上り下りで痛みが出るようになります。重症になるとひざをまっすぐ伸ばせなくなり、安静時や夜間にも痛みを伴うことがあります。

ひざ関節の骨（大腿骨）と骨（脛骨）の間に軟骨があります。軟骨がすり減って、骨（大腿骨）と骨（脛骨）とがぶつかり合うことで痛みを感じたり、骨が変形してしまう疾患が「変形性ひざ関節症」です。今回は中等症～重症の進行した変形性ひざ関節症について説明します。

60歳以上に多く発症

ひざの変形（重症）による長引く痛み

運動器カテーテル治療で 痛み軽減の可能性



治療後経過に個人差はあります。軽症の方よりはやや負担ますが、中等症の方も痛みの軽減を実感しやすい傾向があります。ひざへの負担が大きくなると一過性に痛みを感じますが、少し休むとすぐ治まるなど回復の早さを実感する方もいます。重症の方は安静時痛や夜間痛の軽減を実感しやすい傾向があります。ただし、ひざの変形が元々強いため、動作時の痛みや骨同士がぶつかるコリコリとした違和感は残ることが多いです。

变形性ひざ関節症に対する運動器カテーテル治療は、元々の重症度により効果が異なります。モヤモヤ血管はあるのか、まずは診察にて評価を行います。治療効果に個人差があるため、効果をご理解・納得いただいたうえで治療を提供しています。日常生活が以前より楽になったと実感してもらうことを目標とした治療です。長引くひざの痛みで悩む多くの患者さんに届けられるよう願っています。

中等症～重症の方はレントゲン検査で軟骨のすり減りが明らかで、骨のとげ（骨棘）が目立つこともあります。湿布・鎮痛薬・ヒアルロン酸注射の効果が十分とは言い難く、一般的に人工ひざ関節など手術を勧められることが多いと思います。

モヤモヤ血管に対して当院は運動器カテーテル治療を提供していますが、骨の変形を元通り治すことはできないため、痛みを完全にゼロにすることは難しいのが現状です。

一方「仕事の都合で長期入院が難しい」「高齢のため長期入院・手術が困難である」などの諸事情がある方には、治療効果をご理解いただいた上で運動器カテーテル治療を提供しています。太ももの付け根の脈が触れる血管にカテーテルを挿入し、ひざ関節までカテーテルを進めて直接投薬することでモヤモヤ血管を減らす治療です。歯科治療と同じ部分麻酔で行うため、片側であれば30～60分程度。体への負担が軽く、副作用・合併症がほ

長引く痛みへのカテーテル治療

当院は自費診療です

五十肩、ひざの痛み、ヘルニア（指の痛み）、その他関節痛

さくがわクリニック

診療時間

	月	火	水	木	金	土
午前	9:00～14:00	●	●	●	▲	● ★
午後	16:20～17:40	●	▲	●	/	● /

●/外来・手術 ▲/不定期診療 ★/10:00～11:40

浦添市前田1丁目11番1号 1階

予約制 ☎098-877-5577

<https://www.sakugawa-clinic.com/>